

# 日本リハ医学会近畿地方会Newsletter



平成26年度 第2号  
2015年1月15日発行

近畿地方会ホームページ  
[www.kinkireh.com](http://www.kinkireh.com)

日本リハビリテーション医学会 近畿地方会事務局  
大阪医科大学 総合医学講座 リハビリテーション医学教室 佐浦 隆一

お問合せ先 \_\_\_\_\_  
〒600-8815 京都市下京区中堂寺栗田町93番地 KRP6号館304号  
有限会社 セクレタリアット内 近畿地方会事務局  
TEL: 075-315-8472 FAX: 075-315-8472 E-mail: office@kinkireh.com



## 代表幹事の挨拶

大阪医科大学 総合医学講座  
リハビリテーション医学教室  
佐浦 隆一

松が明けて小正月を迎え、日本リハビリテーション医学会近畿地方会(以下、近畿地方会)会員の皆様には、寒中お見舞い申し上げます。また、平素は近畿地方会の運営へのご協力、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

さて、昨年は公益社団法人日本リハビリテーション医学会(以下、リハ医学会)の役員(監事、理事)の改選がありました。また、リハ医学会専門医会でも幹事改選、近畿地方会も監事、幹事の改選年でした。リハ医学会役員会には、近畿地区からは田島文博先生(和歌山県立医科大学)が監事として、久保俊一先生(京都府立医科大学)、菅本一臣先生(大阪大学)、道免和久先生(兵庫医科大学)と私が理事に選任、専門医会幹事会には中村健先生(和歌山県立医科大学)が再選され、リハ医学会における近畿地区の発言力、発信力が強化されました。一方、近畿地方会でも平成26年7月26日の総会にて新幹事会(幹事56名、監事2名)が選出され、私も代表幹事に再任されました。

これまで多くの幹事、監事の方々のご尽力、会員皆様のご協



## CONTENTS

- ◆代表幹事の挨拶 ..... 1頁
- ◆新幹事の抱負 ..... 1-3頁
- ◆京都府立医科大学リハビリテーション医学教室開設(京都リハビリテーション医学研究会第1回学術集会開催案内) ..... 4頁
- ◆第2回近畿地区新専門医交流会の開催報告 ..... 5頁
- ◆第38回日本リハビリテーション医学会近畿地方会学術集会 会長挨拶 ..... 6頁
- ◆第38回近畿地方会学術集会開催概要 ..... 6頁
- ◆2015年度近畿地方会研修会カレンダー ..... 7頁
- ◆編集後記 ..... 7頁



力により、近畿地方会は学術集会、生涯教育研修会、Newsletterの発行、近畿地方会学術誌の発刊など幅広く活動を重ねて参りました。そしていよいよ、来年は平成19年に住田幹男先生が会長をされた第44回日本リハ医学会学術集会以来、9年ぶりに近畿地区で学術集会(会長 久保俊一先生)が開催されます。また、平成29年からは新専門医制度下での臨床研修が始まります。

幹事会では、これらの事業や課題は、近畿地方会というチームで対応しなければとても乗り切ることができない、重大かつ重要な事項であると認識しています。そのために、これまで以上の近畿地方会会員皆様の協働、協力が必要となってきますので、皆様の暖かいご支援とご協力を重ねてお願い申し上げます。



## 新幹事の抱負

新幹事の自己紹介です。経歴も専門領域もそれぞれ異なりますが、リハ医学にかける熱意は大きく、近畿地方会の多様性と専門性がアップしました。

### 土岐 明子 大阪府立急性期・総合医療センター リハビリテーション科



平成9年広島大学を卒業後、平成10年秋に関西へ移り住み、近畿地方会に所属し、急性期総合病院、回復期リハビリテーション病棟などで勤務しました。平成22年3月に出産、1年間の育休後復帰し、平成24年4月から現在の勤務先に移りました。

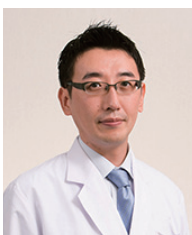
現在の職場は救命救急センターを擁する急性期総合病院の中に回復期リハビリテーション病棟、障害者等病棟を有する珍しい形態の病院です。以前から、受傷直後からの全身管理、機能回復に関わりたくと考えていました。大変な面も多々ありますが面白みを感じながら日々診療しています。日本リハビリテーション医学会の仕事では、『神経筋疾患・脊髄損傷の呼吸リハビリテーションガイドライン』策定委員会委員をさせていただき、昨年6月に刊行されました。非侵襲的人工呼吸管理を中心に頸髄損傷者の呼吸障害についても取り上げています。

近畿地方会幹事としては、まずは教育委員会委員をさせていただくことになりました。リハ栄養やロボット技術、磁気刺激などリハビリテーションにはまだまだ新しい分野が広がってきています。会員の皆様の日々の診療・研究にお役にたてることができれば幸いです。どうぞよろしくお願いたします。

**三上 靖夫 京都府立医科大学大学院 医学研究科 リハビリテーション医学**

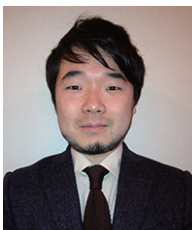
この度、近畿地方会幹事に加えていただきました三上靖夫と申します。昭和60年に京都府立医科大学整形外科に入局し、平成26年10月に新設された、京都府立医科大学リハビリテーション医学教室の病院教授を拝命しております。卒後2年目に脊髄損傷の患者を受け持つ機会を得てリハビリテーションの重要性を痛感しました。整形外科医として研鑽を積んで参りましたが、リハビリテーション医学にも興味を持ち、日本リハビリテーション医学会には入会して26年になります。脊椎脊髄疾患とリハビリテーションの臨床と研究に携わり、平成14年からは、京都府立医科大学の教員として学生や若手医師への教育を行ってきました。

超高齢社会を迎え、健康寿命延伸のためにリハビリテーションの必要性は高まるばかりです。「リハビリ」という言葉は広く認知されるようになってきましたが、一方で、誰もが良質なリハビリテーションの恩恵を受けられるような医療環境はまだ整っておりません。臨床や研究を通してリハビリテーション医療に携わる人材を育成し、近畿地方会の先生方とともにリハビリテーション医療・医学に貢献したいと考えております。どうか、よろしくお願い申し上げます。

**酒井 良忠 神戸大学大学院 医学研究科 リハビリテーション機能回復学 / 神戸大学病院 リハビリテーション科**

このたび、日本リハビリテーション医学会近畿地区幹事に選出されました酒井良忠と申します。平成8年神戸大学を卒業後、神戸大学整形外科学教室に入局しました。平成21年から姫路獨協大学医療保健学部でリハ関連職種の教育に携わりながら、回復期病院での研修を行いリハ専門医を取得いたしました。平成24年に神戸大学大学院医学研究科リハビリテーション機能回復学の特命教授に着任し、神戸大学病院リハビリテーション科の開設と、リハ専門医の育成を行っております。元々の専門を生かして関節リウマチ、骨粗鬆症のリハビリテーションのほか、病院の特性としてがんリハビリテーションに力をいれております。とくに骨転移については、骨転移キャンサーボードを設立し、診療科横断的に患者ADL、QOLを向上

させるために取り組んでおります。また基礎研究では炭酸ガス経皮吸収の効果について研究しており、ポストポリオ症候群の臨床治験を開始予定です。大学病院のリハビリテーション科として、専門医の育成、エビデンスの構築、地域の回復期病院との連携など、学会に貢献できるよう努力する所存ですので、諸先生方のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

**勝谷 将史 西宮協立リハビリテーション病院 リハビリテーション科**

この度、日本リハビリテーション医学会近畿地方会幹事を務めさせて頂くことになりました勝谷将史と申します。平成15年兵庫医科大学を卒業し、同大学リハビリテーション医学教室主任教授 道免和久先生に師事しリハビリテーション医学を学んでおります。現在は西宮協立リハビリテーション病院にて医長として回復期リハビリテーションとリハ専門外来での診療を担当し、地域リハビリテーション支援センターの構成員としても業務マネジメントや組織運営など、地域における多職種連携やリハビリテーション医療の質の向上に務めております。リハビリテーション医療は介護・福祉領域とも密接に関わる分野でありチーム医療を基本とするため、他職種とのコミュニケーション能力やチームのマネジメント能力などの高いソーシャルスキル

を求められていると実感しております。後進の育成はもちろん、医師のみならずチームとして質の高いリハビリテーション医療を展開できるようなスタッフの育成やリハビリテーション医療の推進・啓蒙などリハビリテーション医療の発展に尽力していく所存です。まだまだ若輩であります、皆様ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

**池淵 充彦 大阪市立大学大学院 感覚・運動機能医学大講座 整形外科**

この度、日本リハビリテーション医学会近畿地方会幹事に就任いたしました、大阪市大医学部整形外科所属・池淵充彦と申します。

リハビリテーションという言葉は日本語として定着していますが、診察業務をしておりますと、医学領域においてさへリハビリテーション医学は本当に周知されているとは言い難い状況なのかな、と思わされてしまう事例に遭遇してしまい、残念な気持ちになることがままございます。ですが、状況は少しずつ変化してきております。日本リハビリテーション医学会が基本領域18学会に含まれ、専門医制度の起ち上げが始まりました。ポリクリでもリハビリテーション医学に興味を持ち、質問をしてくる学生さんがちらほら現れてきました。

これはリハビリテーション医学に携わる諸先生方の日頃の努力の賜物であります。近畿地方会幹事となり、これをさらに育てていかななくてはならない立場となったことを考えますと、まさに身の引き締まる思いです。若輩者で行き届かない点多々あるかと思いますが、リハビリテーション医学の発達とリハビリテーション医学会の発展に、少しでもお手伝いできればと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

## 松本 憲二 関西リハビリテーション病院



今年度、新幹事に就任させていただきました松本憲二と申します。

私は平成元年に京都大学卒業し、卒後内科臨床に数年携わっていましたが、患者さんの疾患を治療する中で、障害に対するアプローチを行うリハビリテーション（以下リハ）の重要性に目覚め、リハ医師になる決意をし、以降は国立長寿医療研究センターのリハ研究室の研究員をへて、平成14年から兵庫医科大学に入局し道免教授の指導を受けてまいりました。現在は関西リハビリテーション病院に勤務しております。

近畿におけるリハ科の認知度は、現在もまだまだ少なくリハ科志望の学生や医師が少ないため、リハ専門医数が絶対的に不足しており、リハ科医師赴任の要請に十分こたえられておりません。そのため、学生に対し、リハ科の魅力を十分伝えていき入局していただくこと、他科の医師のリハ科へ転科・専門医取得の教育をしていくことに、これまで以上に力をいれ、専門医の数の増加に微力ながら協力していきたいと思っております。また、近畿地方会の教育活動を通じ、他科の医師の方々にもリハ科・リハアプローチの重要性について理解を深めていただくことに貢献できたらと考えています。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

## 西尾 健 京都市身体障害者リハビリテーションセンター



この度、日本リハビリテーション医学会近畿地方会の幹事を新たに就任させていただきましたことになりました西尾健と申します。平成2年に京都大学医学部医学科卒業後、整形外科と運動器リハビリテーション医学に携わってまいりました。平成15年より京都市身体障害者リハビリテーションセンター附属病院整形外科および訓練科（リハビリテーション科）で、主には重度頸損や脊損、リウマチ患者、四肢切断患者や、高次脳機能障害患者の回復期リハ終了後の自宅復帰等に対応してまいりました。また京都市身体障害者更生相談所においても義肢装具適合判定、特例補装具判定、更生医療判定など公的業務も行ってまいります。

当センターは平成27年度より京都市内における地域リハビリテーション機能を推進し、さらに高次脳機能障害のある方に特化した自立支援施設設置や事業者の人材育成等障害福祉サービスの機能充実にむけて組織の再編成をすすめております。地域生活の質的向上を目的とした生活期リハビリテーションが確立できるようリハビリテーション医学に貢献したいと思っております。よろしくお願ひ申し上げます。

## 倉都 滋之 ヘルランド総合病院 整形外科



このたび、リハ医学会近畿地方会の幹事を拝命いたしましたヘルランド総合病院の倉都（くらつ）と申します。私は、昭和60年に徳島大学を卒業後大阪大学整形外科学教室に入局し、現在に至るまで主に骨・軟部腫瘍（良・悪性）や関節外科を中心に医療活動を行ってまいりました。従いまして、当然のことながら運動器のリハビリテーションに携わる機会が主だったのですが、3年前現病院に赴任後は、当院が大阪府がん診療拠点病院ということもあり、がんのリハビリテーションにも積極的に携わるようになった次第です。骨・軟部腫瘍はもとより転移性骨腫瘍の患者さんのご紹介も著明に増加し、また今年9月の新病院開院後は20床の緩和ケア病棟も新設され、この領域におけるリハビリテーションの重要性を今さらながら痛感しております。

全国より講師をお願いし、泉北骨・関節セミナーと泉北がんリハビリテーション研究会をそれぞれ年1回ずつ開催し、地方でのリハビリテーションの啓蒙にも励んでおります。

近畿地方会の諸先生方のご指導・ご鞭撻を賜り、リハビリテーション医学の発展のため少しでもお力になれますよう努力する所存でございますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

## 松田 秀一 京都大学大学院 医学研究科 整形外科



日本リハビリテーション医学会近畿地方会の幹事に就任させていただきましたことになりました松田秀一と申します。この場をお借りいたしまして会員の皆様にご挨拶させていただきます。このたび、幹事としてお認め頂いたことは身に余る光栄であり、その責務の重大さを痛感しております。私は九州大学の出身で、整形外科、中でも膝関節疾患を専門として参りました。平成24年の3月より京都大学整形外科およびリハビリテーション科の科長を勤めさせていただいております。

リハビリテーション医学は、複数の診療科の医師や理学療法士の皆様などとの共同作業なくては適切な予防、治療を行うことはできないと思っております。近畿地区におきましても研究会などを通して大学間、業種間の情報共有や研究活動を行い、近畿地区のリハビリテーション医学の発展のために努力していきたいと思っております。微力ではございますが、佐浦隆一代表幹事をはじめ、幹事の先生方のご指導を賜りながら、本会の発展に尽力していく所存でございます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。